



IIAS NEWSLETTER

International Institute for Advanced Studies

March 2004

37

IIAS 財団法人
国際高等研究所

index

茶会と講演会

『けいはんな・茶会と文化学術講演会』を開催

公開講演会の開催報告

IIASフェロー公開講演会

『ミクロからナノへー先端材料を目指す新物質開発 -』 新庄輝也

京都大学名誉教授、高等研フェロー

一般公開講演会

『お経は読めるか?ー漢訳仏典を読む試み -』

松尾良樹

奈良女子大学 教授

ニュース・掲示板

上林弥彦先生御逝去のお知らせ

最近の主な活動と今後の予定

出版物の紹介



2003年5月24日の茶会

高等研では、2004年6月19日(土)に茶会と公開講演会を開催します。この企画は、1999年秋に茶道裏千家千宗室御家元(当時)をお招きし、茶会と公開講演会を開催したのを契機とし、2001年からは高等研の定例行事として位置付けて開催してきており、今回は第4回となります。

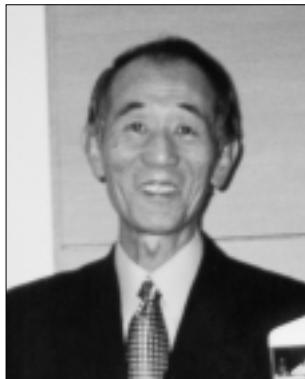
私達、日本人は縄文以来の文化の歴史の中に生きています。世界的に見て独立した文明史を持つ日本で、祖先から継承、発展させてきた優れた伝統、文化をあらためて確認し、次世代を担う若者達に引き継いでいくということは、より豊かな未来を拓いていく上で欠かすことができません。この茶会と公開講演会がその役割の一つを果たす

6月19日に
『けいはんな・茶会と
文化学術講演会』を開催

開催日 2004年6月19日 / 土曜日
会場 高等研

ことになれば、と考えています。高等研では、人口、資源、環境、倫理などの時代的、社会的背景に由来する諸課題への対応と、21世紀の文化、科学、技術のあるべき姿を求めて研究を進めてきています。この企画も本来の研究事業と密接な関連があるといえましょう。

呈茶は、茶道裏千家千玄室大宗匠から御寄贈いただいた茶室「雅松庵」で、初心者、特に子供達を主な対象とした「お点前体験コーナー」はコミュニティー・ホールで、講演会は、佐々木正子・京都造形芸術大学大学院客員教授を講師に迎え、「茶と絵画 - 日本の美意識 - 」をテーマにレクチャーホールで行われます。 (文責・事務局)



IIASフェロー公開講演会開催報告

『ミクロからナノへ - 先端材料 を目指す新物質開発 -』

講師
新庄輝也

京都大学 名誉教授
高等研フェロー

開催日 2003年11月29日 / 土曜日
会場 高等研レクチャーホール

IIASフェローの新庄輝也京都大学名誉教授が、11月29日、上記のタイトルで公開講演会を行った。新庄名誉教授は長年にわたって京都大学化学研究所において磁性体の物性に関する実験的研究に従事し、最近は特にナノスケールの磁性体を主な研究対象としてきた。

新聞やテレビでもナノテクノロジーやナノサイエンスといった言葉がよく使われるようになっているが、ここでのナノとは長さの単位を示し、1ナノメートルは1メートルの10億分の1に対応する。原子一個のサイズは1ナノメートルよりもさらに小さいが、原子がなにか集まって形成する1ないし10ナノメートル程度のサイズとなった分子などの原子集団が物質の基本的性質を決定している場合が多い。そこで、新しい機能を発現させるためには、ナノスケールで人工的な構造を与えるなどの制御が重要となり、種々の物質についてナノ構造制御が試みられている。本講演では、磁性体についてはどのようなナノ構造制御が行われているかが解説された。

磁性体に関する初步的説明が行われ、たとえば紙幣も一種の磁性体であるように、身近に多くの磁性体が利用されていることが紹介された。ナノスケールの磁性体の重要性を容易に理解できる例は磁気記録材料である。今日のコンピュータの進歩を支えるハードディスクでは、ナノスケールの微小な磁石が情報を記憶し、ヘッドという微小なセンサーが磁気的情報の読み出しを行っているが、より大量な情報を蓄積するためにはこれらの材料をさらに微細なスケールで



制御しなければならない。

磁性体の分野において、最近の20年間で最もインパクトの大きい発見は巨大磁気抵抗効果(GMR)であり、基礎研究面での活発な展開を引き起した。しかも発見後10年を経ずしてその原理を利用したスピナバルブと呼ばれる方式の磁気記録ヘッドが実用化に成功し、今日のコンピュータの性能を支えており、応用面でも画期的な成果を挙げて話題となった。GMRという現象の研究に密接に関わってきた立場からその内容を解説し、どのような貢献を行ってきたかを述べた。

磁性層間の結合は基礎物性的に興味深い現象であり、その機構を解明するための研究が最初のGMRの発見につながった。講演の中で、簡単なデモ実験によって層間の結合の存在が証明できることが示された。しかし、GMRの原理を利用した、スピナバルブと呼ばれる磁気ヘッドは層間結合の存在しないシステムでGMRを発現させる方式であり、GMRの発見には必要条件であった層間結合が、実用化においては邪魔者に扱われており、はからずも研究から開発への流れは一筋縄ではないことが示された。

ナノスケールの設計図にしたがって人工的に構造を制御して作られた物質が最先端磁性材料として活躍している例が紹介され、新しい物質研究、材料開発がナノを重要なキーワードとして進展していることが述べられた。

(文責・事務局)





一般公開講演会開催報告

『お経は読めるか? - 漢訳仏典を読む試み -』

講師
松尾良樹

奈良女子大学 教授

開催日 2004年2月21日 / 土曜日
会場 高等研レクチャーホール

お経を聞いたり、唱えたりする人はあるとしても、それを読んだことのある人は、ほとんどいないだろう。お経は、漢字の音読で唱え、読んで理解することは全く無視されているのが現状だ。^{とんこう}敦煌文書など8世紀の文献である「三大写本群」の研究に関連して、その読み比べの参考にしているのが、後漢の時代以後にサンスクリット語を中国語に翻訳した漢訳仏典の集大成『大正新脩大藏經』からの語彙データであり、このデータを基に、(仏教の門外漢であるが)わたしは、「お経を読む試み」を続けている。

「大正藏」(略称)は85巻からなる膨大な集大成。そのなかで、釈迦の前世の物語や、教えるための比喩の物語が収められた、面白くて比較的分かり易い「本縁部」のうちの『選集百縁經』を、仏教説話の研究者とともに、最初に読んだ。吳の支謙が訳し、百の物語を集めたお経だが、10編ごとに、出初めと結末部分には類似した表現がされており、ある程度、中身の見当がつく半面、似てはいるが字句が微妙に違うこともあり、あれこれ比較研究し、貴重な「語彙データ」を積み重ねることができた。

現在、仏教書専門の出版社から「新国訳大藏經」シリーズの「選集百縁經」(1993年)など、日本語に訳した「書き下ろし文」が次々と出版されているが、わたしからみると、国訳の仕方に疑問点や問題点を多く含んでいる。例えば、『百縁經』第56話の「^{あうむしあう}鶲鵠子王、仏を請ずるの縁」について考察してみると...。新国訳の「世尊よ、何(いざこ)の所在と為すや。...は、「世尊よ、為(はた)何所(いざこ)に在りや」と訳すべきであり、また「然(しか)するや可(よ)し」と直接話法に訳している部分は、括弧を外して、単に「然可す」(然許、許可と同義語)とするのが正確であり、この他、疑問点は9個所に及んだ。仏典に出てくる「特別表現」に充分留意しない限り、現代人に適した国訳とはいえないだろう。「及」は、「...とともに」を表わす接続詞(「及以」と同義語)だが、時には「...とともに、なににする」という介詞(前置詞)になる用法もあり、こうした「特別表現」は、中国の辞書にも載っていない。このように細かく考察すると、「新国訳百縁經」全体では、千箇所以上の疑問点が出てこよう。

中国では、紀元前に「書き言葉」(文語文)の規範が成

立して、1911年「文学革命」まで続いており、その「古代漢語」を究明する素材として、膨大な『漢訳仏典』が“かつこうの材料”として存在する。そして、その訳者(ないしは翻訳グループ)をリストアップし、著名な訳者の全仏典を読むことが、その訳者の言葉遣いを正確に把握する道、とわたしは考えている。訳者不明の「失訳」が160点程あるが、短いお経が多くて、時間のあまりない時のわたしの読み物として、適している。

「^{しゃみらきょう}沙彌羅經」や「^{ごぼしきょう}五母子經」などのお経を読んで、浮かんできた「話し言葉の特徴」を4点にまとめることができる。
接尾辞(いざれも下の文字)=便自、此間、何等、何所など。
意味を持つのは、上の字のみ 同義結合=並隣、等輩、各々、皆悉、依因など。「^{おもう}言念」の例は少なかったが、思う、という意味の「^{おもう}念言」と同義、と判断する 補語(いざれも下の文字)=至到、観見、處在、變作、死去など。(動詞の結果とか方向とかを表わす) 直接話法に用いられ、疑問文を表わす発問の辞、為、など。(現代の中国語には残っていないが「^{はた}ハタ」と読む)。

中国仏教の文献である「内典」の語学研究は十分でなく、ゆえに、中国の辞書類は仏典を読むための資料となりにくい側面がある。遺された多くのお経は中国語に訳された「漢訳仏典」であり、インドの元の言葉であるサンスクリット語、あるいは、その古い翻訳であるパーリ語、さらには、チベットで翻訳された「チベット教典」の研究成果をじっくりと振り返りつつ、中国語の史料として「漢訳仏典」を読み、分析し、得られたデータを積み重ねることによって、ともすれば冷たくあしらわれている「仏典」に光を当てていきたい。(文責・事務局)



上林 弥彦先生(企画委員)御逝去のお知らせ

2003年4月に企画委員に御就任いただきました上林弥彦京都大学大学院情報学研究科研究科長(社会情報学専攻教授)は、平成16年2月6日に御逝去されました。享年60歳でした。謹んで御冥福をお祈りいたします。



最近の主な活動と今後の予定

研究会 2004年3月~4月

日(曜日)	プロジェクト名	研究代表者 / 講演者
3月 5日(金) ~ 7日(日)	「思考の脳内メカニズム」国際ワークショップ	波多野誼余夫
3月 6日(土) ~ 7日(日)	「科学と技術のはざ間」フェローフォーラム	本河光博、伊藤厚子、新庄輝也、遠藤康夫
3月 6日(土)	「21世紀の宇宙開発・宇宙環境利用の問題」	木下富雄
3月 9日(火) ~ 13日(土)	「CMDワークショップ」	赤井久純
3月13日(土)	「東西の恋愛文化」フォーラム	青木生子、他
3月23日(火)	「大学における知的財産と产学連携」フォーラム	北川善太郎、他
3月26日(金) ~ 27日(土)	「国際比較からみた自己決定と合意形成」	田中成明
3月27日(土)	「センター論」	鷺田清一
4月 5日(月)	「物質科学とシステムデザイン合同分科会」	金森順次郎
4月17日(土)	「スポーツ創製」	新庄輝也
4月24日(土)	「スキルの科学」	岩田一明

出版物の紹介

高等研報告書

2004年2月21日発行

「公共部門における人材の配分と育成 - 官僚制の国際比較」 猪木武徳(研究代表者)

高等研選書

選書 1▶「美しいダムと水環境づくり」 沢田敏男著

紹介:私達の生活に欠かすことはできない水。それを確保するためのダムと修景問題、不可分の関係にある水環境づくりについて述べる。

選書 2▶「進化遺伝学から見た人類の過去と未来」 木村資生著

紹介:「分子進化の中立説」で世界的に著名な遺伝学者が語る人類の過去と未来。

選書 3▶「中国とインド」 中根千枝著

紹介:過去、ともに偉大な文化を築き、現在も世界に冠する2大国家である中国とインド。社会・文化の観点から両国の相似性を追及する。

選書 4▶「大人のためのわかる数学」 四方義啓著

紹介:難しい知識を易しく解説するよりは、易しいことの中に本質をくみ取る「大人のための知恵の書」である。

選書 5▶「近未来の法モデル」 北川善太郎著

紹介:現代社会を「欧米モデル」「多元モデル」「近未来モデル」から考察し、いま予測できる近未来から現代を考える近未来モデル論。

選書 6▶「無機イオンと生命」 江橋節郎著

紹介:ヒトの生命活動に重要な役割を果たしているカルシウム、ナトリウムなどの無機イオン研究の軌跡を語る。

選書 7▶「科学と技術の間」 西島和彦著

紹介:科学と技術は違うもの。科学と技術の誕生のいきさつと、日本人との相性について述べる。

選書 8▶「素粒子物理学の100年」 南部陽一郎著

紹介:20世紀の物理である素粒子物理学の発展の歴史を辿り、その発展を支えた指導原理を解説する。

選書 9▶「関西空港建設の事後評価」 赤井浩一著

紹介:関西空港、それは世紀の失敗作だったのか。主に技術的観点からの營造物としての関空と、その経営形態などについて語る。

選書 10▶「地球大気の研究」 加藤進著

紹介:地表から超高層まで広がる大気の運動は結ばれており、大気は一つの有機体と考えられている。この大気研究の発展について語る。

選書 11▶「情報社会における著作権とビジネス」 北川善太郎著
紹介:著作権のビジネスモデル「コピーマート」を中心に、出版、放送、音楽、映画界や行政の専門家が著作権問題を論じる。

選書 12▶「物質(もの)とは何か」 井口洋夫著

紹介:物質を構成する分子の設計と合成、生活に密接に関連する有機化合物に関する研究の歴史と夢を語る。

選書 13▶「美しいノイズ」 飛田武幸著

紹介:嫌われ者だったノイズも、今は自然界での重要な働きがわかり、役立たせるための美しい理論ができたことを説明する。

選書 14▶「農の世界の意味」 坂本慶一著

紹介:農は人間が食を得るための手段であるだけでなく、人間の生活(くらし)や生き方をも形成してきた。今、改めて農と生の相関を問う。

選書 15▶「大阪と自然科学」 金森順次郎著

紹介:自然科学はドグマとの闘いを通じて芽生える。大阪の懐徳堂、適塾は西洋自然科学探求への道を開いた。

選書 16▶「ゲノムの峠道」 松原謙一著

紹介:目覚ましい発展を遂げた生命科学。我が国の分子生物学の立ち上げと発展に大きな貢献をした著者が、その歴史とあるべき姿を語る。

選書 17▶「患者や弱者に優しく」 星野一正著

紹介:患者中心の医療とインフォームドコンセントの大切さについて、アメリカ、カナダ、ドイツ、そして日本での豊富な経験をもとに語る。

選書 18▶「宇宙の仕組み」 古在由秀著

紹介:私達には不思議に思える宇宙の状態や現象、そして仕組みを、平易に解説し、疑問に答えてくれる。

選書 19▶「いのちの歴史を探そう」 岩槻邦男、岡田益吉著

紹介:46億年前に現れた生命は進化して多様な生き物となったこと、進化とは何か、進化と遺伝との関係は、などをやさしく解説した。

編集・発行者

財団法人 国際高等研究所

〒619-0225 京都府相楽郡木津町木津川台9丁目3番地

TEL : 0774-73-4001 FAX : 0774-73-4005

E-mail : www_admin@iias.or.jp

http://www.iias.or.jp